

読むことを哲学する時間

Re:cord

言葉

大切に

何を

する

古田徹也 Tetsuya Furuta

第41回サントリー学芸賞受賞

『言葉の魂の哲学』

3 / 20 (土) 14:00 ~

場所: なみきスクエア 2階 第1・2会議室

参加費: 500円 (資料付き) 定員: 50名 (先着順)

申込み: 東図書館カウンターもしくはお電話にて

Tel: 092-674-3982

福岡市東図書館

福岡市東区千早4-21-45 なみきスクエア1F 指定管理者: 東図書館管理運営共同事業体 (嬭紀伊國屋書店・嬭日比谷花壇)

読むことを哲学する時間 Re:cord

ある言葉をきっかけに風景ががらりと変わってしまうことはありませんか？
私たちは日々会話をしたり、ものを書いたり読んだり、さまざまな場面で言葉に触れています。
そのなかで、ある言葉がしっくりくることもあれば、反対に傷つく言葉であったり、
ただ聞き流してしまうこともあるかもしれません。

『言葉の魂の哲学』という本の中で、著者は「言葉に魂が宿るとはどのような時か」と問いながら、
そうした印象的な言葉は、「その人がそのときに置かれている文脈を鮮やかに照らし出す役割を果たして
いるのだとも言える」と考察を導き出していきます。このたび著者である古田徹也先生をお招きし、
読むことについて、言葉を吟味することについて、その面白さや重要性をお話しいたします。

Re:cordは、「本を読むことで世界と自分がつなぎ直されること、記録すること」—— そのような
意味合いを語に響かせながら、様々な角度から「読むこと」について考え、
その創造性やおもしろさを見つけ出していく試みです。

古田徹也先生トーク&ブックトーク

2021/3/20 (土) 14時—16時頃 終了予定
(開場 13時半)

場所：なみきスクエア2階 第1・2会議室 参加費：500円(資料付き)

「言葉大切にすること？」

って何をすること？」

「言葉を大切にしよう」と言われたら、誰もが同意するでしょう。けれども、「言葉を大切にすること」とは、実際のところ何をすることなのでしょうか。

私がいま着目しているのは、言葉を大切にするこの一環としての、「しっくりくる言葉を選び取る」という実践です。

さまざまな言葉の間で迷い、「この言葉ではまだしっくりこない」とか、「これだ！この言葉がぴったりだ！」と感じたりするとき、私たちはいったい何をしているのでしょうか。個々の言葉に宿る微妙な表情をとらえるとき、私たちはそこに何をみているのでしょうか。

今回の講演では、国語辞典の語句の説明を検討するチームの興味深い営みなど、具体的な事例を多く取り上げながら、「しっくりくる言葉を選び取る」という、一見すると些細なことにも思える実践が、私たちの生活にとって持つ極めて重要な意味を明らかにしたいと思います。

講師の古田先生より



■講師プロフィール 古田徹也 Tetsuya Furuta

1979年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科准教授。

福岡県立筑紫高等学校卒業。東京大学文学部卒業、同大学院人文社会系研究科博士課程(倫理学)修了。博士(文学)。

新潟大学教育学部准教授、専修大学文学部准教授を経て、現職。
専攻は、現代の哲学・倫理学。

主な著書に、『不道徳的倫理学講義——人生にとって運とは何か』(ちくま新書 2019年)、『ワイトゲンシュタイン 論理哲学論考』(角川選書 2019年)、『言葉の魂の哲学』(講談社選書メチエ 2018年)『それは私がしたことなのか——行為の哲学入門』(新曜社 2013年)ほか。

2006年度日本倫理学会和辻賞受賞
第41回(2019年度)サントリー学芸賞受賞。



福岡市東図書館: 福岡市東区千早4-21-45 なみきスクエア1F

千早駅より徒歩3分